

誰でも★12回は★必ず

★飛びあがります—。

ALLIGATOR

アリゲーター

号 外

No. 1

発行所

東宝東和(株)宣伝部

〒104 東京都中央区銀座2-6-4

プレイガイド・ビル



全米をかつてない衝撃に突き落として襲いかかる、巨大なショック映画Ⅱ「アリゲーター」が、いよいよ日本で公開される。恐怖はいつも人々の視線の届かない場所でも不気味に用意されている。そしてそれは、いつも意外な方角からやってくるのだ。この作品は、アメリカで大ヒットを記録し、81年最大のショック映画と言っても過言ではない迫力で、観る者を圧倒するだろう。

全米のマスコミもこぞって絶賛し、「誰でも12回は必ず飛びあがる」という保証付きなのだ。いったい「アリゲーター」とは、どのようなショックをはらんだ映画なのか。



- L・A・ウィークリー紙 (80・11・28)
ショッキングだ。全員が素晴らしい演技を展開、見応え十分。
- デトロイト・ランシング・ステイト・ジャーナル (80・11・27)
スゴイ! 私の言うことを聞いて下さい。大事なことです。とても秀れた作品です。今までになかったほどの驚き。ストーリーもハイレベルで、出演者の演技も最高。
- アトランタ・ジャーナル紙 (80・11・24)
驚異中の驚異。少なくとも12回はどんな人でも飛びあがらせてしまうこと請合いた。
- ロサンゼルス・タイム紙

このショックに湧いた!

話題騒然!

全米のマスコミも

幻視聴覚システム上映とは?!

「JTB RASUS」(ウルトラビジュアル)

この作品には、かつてのショック映画にはない新しい仕掛けが用意されている。画面から迫りくる映像の怖さだけでなく、人間の耳では感じとれない周波数で恐怖心を刺激する音が発せられているという。さらに、テレビや映画では禁止されている「サブライミナル・カット」(潜在カット)が行なわれているという噂もあるのだ。これは、カットとカットの間にくわずかな映像を入れ、人間の潜在意識の中にその画面を焼きつけるというものである。そうすることによって一種の幻想を引き起こし、恐怖心を増幅させようとするものである。

この映画を製作したグループ・ワン・フィルムズは、その件に関してのコメントを避けている。しかし上映劇場に対して「上映後、すぐには観客を場外に出さないように」と要請を出したという。



- 「アリゲーター」は傑作ノ登場人物の描写、ストーリーの丁寧さといいい実によくまとまっている。
- シカゴ・トリビューン紙 (80・11・23)
効果的なショック。映画が表現し得るサスペンスの法則に忠実に従い、テンポの早さも充分満足させる。非常によくできた作品だ。
- フィラデルフィア・デイル・ニューズ紙 (80・11・26)
最高作品だと思う。本当だ。我々をひきつけるものは作品の本格的で完璧な、そして細心の注意を払った制作であり、脚本は完全無欠である。

戦慄が突きぬける 12大シヨック!



- ①《前兆》 1968年、フロリダで行なわれた爬虫類ショーで突発事故が発生。死者1名。そのときマリサ12才……。
- ②《異変》 1980年4月14日、下水処理場にバラバラになった人間の手、足が流れつく。マリサは爬虫類学者として成長した。
- ③《亀裂》 翌4月15日、下水溝を捜査中の警官隊が消息を絶つ。マリサの研究室で不吉な出来事が続発。
- ④《目撃》 4月21日、新聞記者が惨殺される。残されたカメラにこの世のものとは思えない異形の物体が……。
- ⑤《血と死の匂い》 4月27日、市警、州軍隊による大掃討作戦開始。同じ頃、マリサの研究室の実験用動物が騒ぎ出す。
- ⑥《死角》 4月29日、ついに恐怖は下水溝から地上へ。野球に興じる少年たちをえじきに……。死者2名。
- ⑦《腐敗》 同日夜、警備にあたるパトカー襲撃される。警官1名殉職。独自の調査をするマリサ、下水溝で意外な事実遭遇。
- ⑧《殺りく》 5月2日、家庭のプールに潜み、少年をひと呑みする。
- ⑨《真相》 5月11日、追撃する名ハンターのブロック大佐が逆襲に会い、惨殺される。マリサ、ついに真相をつかむ。
- ⑩《閃光》 5月20日、運河を捜査中のボートが転覆。SWAT隊員が両足を喰いちぎられる。
- ⑪《復讐》 5月27日、郊外のパーティー会場に出現。車を叩きつ

失神者が続出!

上映中止の劇場も!

いまやシヨック映画には慣れっこになっているアメリカでもやはりこの映画には下胆を抜かれた。劇場では失神者や放心状態になった観客が続出したのである。いっぽう東部ポストンでは、さらに妊娠婦、老人、気の弱い人などに入

アリゲーター上陸!

場規制を行い、その被害を防ぐのに劇場側も手をやくなど大騒ぎとなった。そしてついに、上映中止を断念する劇場も出るという最悪の事態も発生したのである。

ぶすなど血と悲鳴の狂宴と化する。死傷者16名。マリサ、闘いを決意する。

⑫《対決》 5月30日、想像を絶する死闘、そして、マリサに意外な敵が……。

全米で大ヒット!

記録更新中!

座席数500足らずのブリッツ・シカゴ・シアターでの特別先行上映が空前のヒットとなった。2週間で\$81,388(邦貨にして約1,900万円)、20,347人の動員新記録を樹立。これは席数しか切符を売らない自由定員制というアメリカの劇場システムを考慮すると、ほぼ毎回満員という大盛況である。この大ヒットで11月2週間の限定興行がそのままクリスマス・ニュー・イヤー・シーズン公開に突入、ついにロング・ランが決定した。その余勢をかって、他州でも爆発的人気となり、いまや文字通り全米で大ヒットとなったのである。

大都会に潜む恐怖!! これが「現実」だ!!

さまざまな犯罪、火災、公害、そして地震……。人間の文明が創りあげた大都市は、いままさにあらゆる「恐怖」で我々の生活を脅しているかのようだ。しかし、そうした「恐怖」以外にも、もっとも原始的でしかも誰も気づかなかつた驚くべき「恐怖」が潜んでいたのだ。それは決して仮空のことでなく、現実起こっている戦慄の「事件」なのである。

それは、予告もなく突然やってくる。大都市の地下に、網の目のように広がる下水溝。そこで生きながらえ、じつとえじきを待つて潜んでいる生き物たち……。だが、それらがいつ地上に現われないとも限らないのだ。

すでに2年ほど前から、新聞やTVをにぎわせている事実がある。ニューヨークで下水溝をさらったところ、どうした理由か、ヘビ数百匹をはじめ、さまざまな生き物が捕獲された。しかし——それはまだ、ほんの前兆にすぎなかった。

専門家も驚嘆!

この映画を見ごたえあるものになっているのは、アリゲーターをとりまく現状を巧みに背景に置き、その生態を十二分に描きこんだりアリテイにある。しかもそれに加え、テンポの早いドキュメンタリータッチでドラマを運んだところ。この映画の迫力と面白さがある。息づまる静かな場面と恐ろしい動物的な場面が対照的でありながら同量の緊迫感を生み、画面にくぎづけ。今までにない全く新しいシヨックをおぼえ、全身が震える経験を初めて味わった。一見をおすすめする。

〔高田爬虫類研究所・代表〕

高田栄一氏・談



アリゲーター

ALLIGATOR

回バート・フォースター
ロビン・ライカー
製作 バランドン・チェイス
監督 ルイス・ティエグ
カラー作品 / アメリカ映画
東宝東和提供

4月下旬 G・W唯一のシヨックが襲う《戦慄》のロードショー!

歌舞伎町 新宿オデオン座 (202) 5657